

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		10/27 （10/20との比較） 今後の見通し （※4）	10/27 （10/20との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.99% （▲0.04）	88.76円 （▲1.28%）	+3.7% 2017年2Q	1.00%	中銀は政策金利の据え置きを決定。NAFTA（北米自由貿易協定）再交渉などのリスクを踏まえ、将来の金利変更は慎重を期すと表明したことで、カナダドルは対円で下落。国債利回りは低下。	雇用統計や製造業PMIなどの発表を予定。NAFTA再交渉を巡るリスクの遞減、カナダドル高の是正、良好な経済指標などが示されれば、利上げ可能性は高まると予想。また、米国経済の動向にも注目。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		
ブラジル 	BB	9.34% （+0.21）	35.13円 （▲1.19%）	+0.3% 2017年2Q	7.50%	中銀は市場予想通り政策金利の引き下げを決定。テメル大統領の収賄容疑を巡る審議が議会下院で否決されたが、支持票が減少したことから構造改革が遅れるとの懸念が広がり、レアルは対円で下落。国債利回りは上昇。	基礎的財政収支などの発表を予定。大統領が起訴を免れたことで財政再建路線継続が期待される。中銀の追加利下げ観測が高まり、レアルは売られる展開も想定。
	Ba2	 金利低下		 景気回復	 利下げ局面		
メキシコ 	A	7.09% （+0.10）	5.94円 （▲0.53%）	+1.8% 2017年2Q	7.00%	貿易収支は市場予想を上回る赤字幅の拡大。小売売上高は市場予想に反しマイナス成長。米大手格付け機関はNAFTAが実質的に撤廃されれば、同国の格付けを見直す方針を示し、ペソは対円で下落。国債利回りは上昇。	GDP（国内総生産）などの発表を予定。市場では前年比で小幅に上昇を見込む。NAFTA再交渉や国内政治動向に影響を受けやすく、債券・為替市場ともに上値の重い展開を想定。
	A3	 金利上昇		 景気安定	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。
















	格付 (※1)	債券 (※2)	為替 (対円)	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		10/27 (10/20との比較)	10/27 (10/20との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
オーストラリア 	AAA	2.77% (▲0.00)	87.27円 (▲1.66%)	+1.8% 2017年2Q	1.50%	市場予想を下回るCPIや米予算案の可決のほか、副首相が二重国籍で議員資格を喪失し、与党が下院過半数割れとなったことから、政治リスクが高まり、オーストラリアドルは対円で下落。国債利回りは横ばい。	貿易収支や住宅建設許可件数などの発表を予定。政治リスクが意識されるものの、ジョイス氏が補欠選挙で再選されるとの見方が優勢。鉄鉱石価格が安定していることなどから、オーストラリアドルの上値は重い展開と予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ニュージーランド 	AA+	3.03% (+0.08)	78.19円 (▲1.08%)	+2.5% 2017年2Q	1.75%	第2党の労働党を首班とする連立政権が発足。労働党党首は中央銀行法を改正しインフレ目標に加え雇用最大化も目標とする意向を表明。政策の不透明感からニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは上昇。	新政権誕生により、中銀の責務やTPP（環太平洋連携協定）交渉への姿勢など、政策的な不透明感が意識されやすい環境。企業景況感指数や雇用統計などの経済指標が発表されるが、政治要因に左右されやすい状況。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.64% (▲0.01)	13.98円 (▲1.68%)	+0.2% 2017年2Q	0.50%	中銀は政策金利の据え置きを決定。9月時点での経済見通しに沿った形で景気が推移している一方、インフレ率は予想をやや下回っているとの認識を示唆。ノルウェークローネは対円で下落。国債利回りは小幅低下。	小売売上高や製造業PMI、失業率などの経済指標で目立った改善が見られるかが注目される。60ドルを超える水準に上昇した欧州の指標原油価格（北海ブレント）が一段高となれば、通貨の上昇余地が拡大する公算。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		

(出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成)

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

市場概要・見通し（南アフリカ、インドネシア、インド）

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		10/27 （10/20との比較）	10/27 （10/20との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BBB-	8.06% （+0.34）	8.05円 （▲3.18%）	+1.1% 2017年2Q	6.75%	政府は中期財政政策を発表。予算圧縮は困難との認識から、財政赤字幅拡大の見通しなどを示唆。債務格付け引き下げ懸念の高まりを受けて、国債利回りは上昇。ランドは対米ドル、対円でともに下落。	今回の財政政策を受けて米大手格付機関の動向に注目。貿易収支や製造業PMIなどの発表を予定。政治的な混乱に加え、格下げ懸念も相まって、債券・為替市場は軟調な推移を予想。
	Baa3	 金利上昇	 金利低下	 景気鈍化	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB-	6.46% （+0.18）	0.84円 （▲0.60%）	+5.0% 2017年2Q	4.25%	2018年度予算案を承認。財政赤字の対GDP比は縮小する見込み。一方、海外投資家の証券売買フローが純流出となったことを受け、国債利回りは上昇。ルピアは対円、対米ドルでともに下落。	製造業PMIやCPIなどの発表を予定。31日の国債入札結果も注目。インフレ上昇圧力の逓減のほか、国債入札が良好な結果となれば、国債利回りの上昇は一服する見込み。
	Baa3	 金利低下	 金利横ばい	 景気拡大	 利下げ局面		
インド 	BBB-	6.72% （+0.06）	1.75円 （+0.12%）	+5.7% 2017年2Q	6.00%	政府は国営銀行に資本注入を行う計画を発表。資本を増強して経済の足かせとなっている不良債権問題を対処し、景気の押し上げを図るとの期待感から、ルピーは対円で上昇。国債利回りは上昇。	製造業PMIなどの発表を予定。経済活動の再開を確認する内容となると予想。市場で好感された、同国政府による経済成長支援策の発表も下支えとなり、債券・為替市場は底堅い展開を想定。
	Baa3	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気回復	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

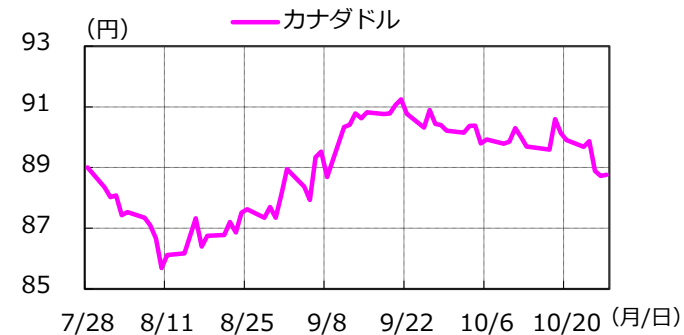
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

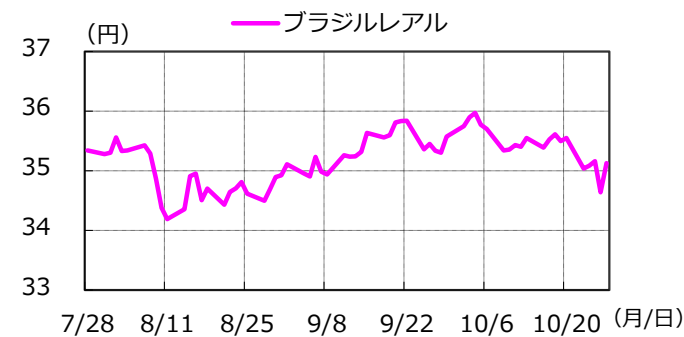
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/7/28～2017/10/27

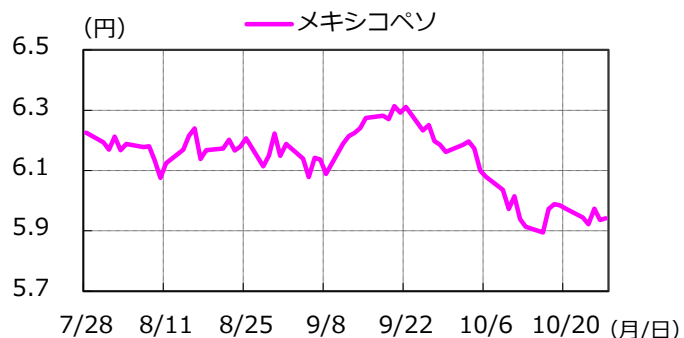
カナダ



ブラジル



メキシコ

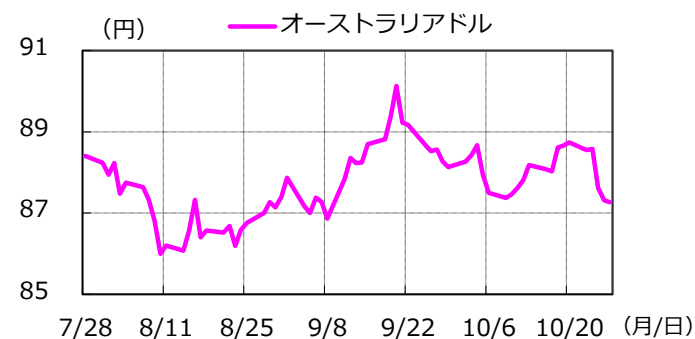


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

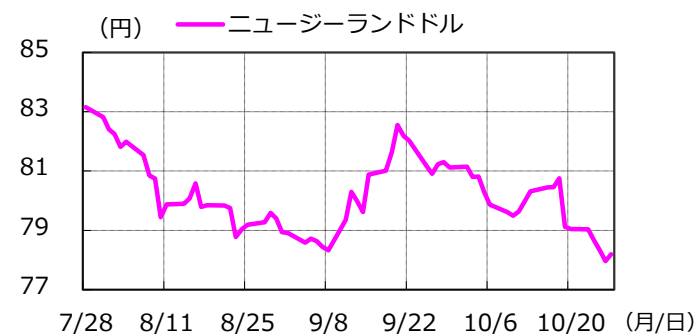
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/7/28～2017/10/27

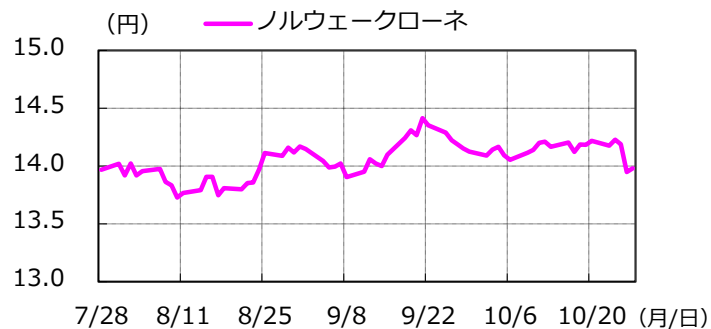
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

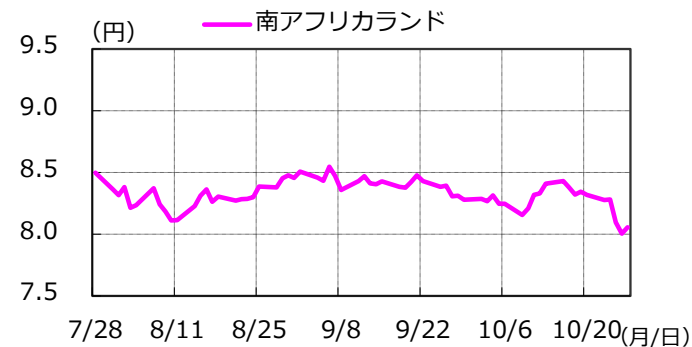


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/7/28～2017/10/27

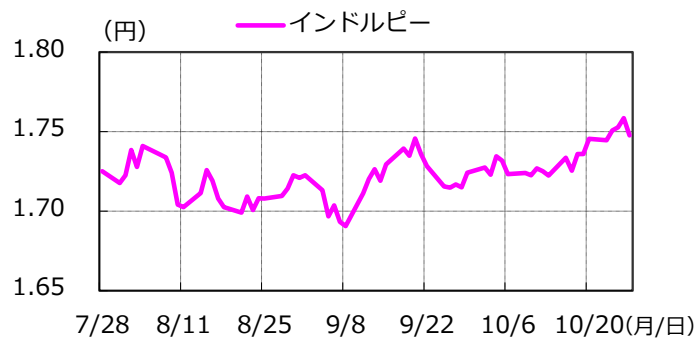
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。